

い ず も 市 議 会 だ よ り

No. 7

平成19年(2007)1月25日



出雲の未来を担う新成人
(1月7日成人式・カミアリーナ)

あけまして
おめでとうございます
本年もよろしく
お願いいたします

年賀状を自粛しています
議員は年賀状などのあいさつ状
を出すことが禁じられています。

- | | | | |
|-----------------|---|-------------|----|
| ●議会の動き..... | 2 | ●一般質問..... | 7 |
| ●委員会報告..... | 3 | ●講演会報告..... | 14 |
| ●請願・陳情・意見書..... | 5 | ●視察報告..... | 15 |
| ●特別委員長に聞く..... | 6 | ●編集後記..... | 16 |

一般会計第4回補正予算が可決される

12月定例市議会 報告

12月定例市議会では、執行部から27件の議案が提案されました。

「平成18年度(2006)出雲市一般会計第4回補正予算」など予算案件8件、平田ニューススポーツ広場を新設することに伴う「出雲市スポーツ施設条例」の一部改正など条例案件9件、そのほか、「島根県後期高齢者医療広域連合の設立について」など10件がその内容であり、すべての議案について、原案のとおり可決しました。

また、議員提出議案として、「道路整備の財源確保に関する意見書」「療養病床の廃止・削減計画の中止を求める意見書」の2議案を提出し、いずれも原案のとおり可決しました。

平成18年度 第3回

出雲市議会（定例会）会期日程

開会 平成18年(2006)12月1日(金) **閉会** 平成18年(2006)12月18日(月) **会期18日間**

12月1日(金) 本会議(開会、議案上程・説明、採択)

5日(火) 本会議(一般質問・1日目)

6日(水) 本会議(一般質問・2日目)

7日(木) 本会議(一般質問・3日目、議案質疑、委員会付託)

11日(月) 総務委員会

12日(火) 文教厚生委員会

13日(水) 環境経済委員会

14日(木) 建設水道委員会

15日(金) 庁舎建設特別委員会

18日(月) 本会議(委員長報告、討論、採決、閉会)

西尾市長、知事選出馬断念を出雲市議会で発表

12月議会初日、冒頭のあいさつで、かねてから知事選に出馬の意欲を示していた西尾市長は、これを断念すると発表しました。以下にその内容を要約し掲載いたします。議会といたしましては、今回の件に関し、協議・総括していくことにしています。

私は、全県民の皆さま方に次期知事選において、私を候補としてお認めいただきたいとアピールをしてきました。

このような中、私が一番重要視しておりました自民党島根県連におかれては、このたび溝口さんという候補者を擁立されるということが確定しました。また市内の各種団体の代表の皆さま方、私の同窓生・後援会の皆さま方、出雲市の職員の皆さま方には、「ぜひともこのまま市長をやってほしい」と、私の方においていただいています。

これを受け、まことに断腸の思いですが、次期知事選への立候補は残念ながら断念することになりました。

市議会議員・市民の皆さま方、関係の全県民の皆さま方にご心配をかけましたことを、心からおわび申し上げます。

また、これを契機に新出雲、あるいは新島根の存在こそが日本国の命運を決するというような気持ちで、ともどもに頑張りたいと思います。

◆常任委員会報告◆

JR江南駅利用者対策についての請願を

採択

総務委員会

予算案件では一般会計第四回補正予算のうち、総務費

ではハザードマップ作成にかかる基礎調査経費四百三十万円、商工費ではコンベンション開催支援事業三百万円、まち歩きマップ作成および古代出雲歴史博物館開館に合わせた記念イベント開催費五百万円などについて審査し、原案のとおり可決しました。

「JR江南駅利用者対策について」の請願は、利便性向上のため、



駅舎の整備が待たれるJR江南駅

駅舎の整備などを求める内容です。同駅は大

況です。現地を調査し、審査した結果、採択しました。

継続審査中の「平田体育館の早期建設を求める陳情」は、いったん取り下げられ、内容をかえ再提出されました。新出雲市の総合体育の中心になる規模を求めず、平田地域の屋内スポーツの中心にな

西田・北浜・鰐淵三地区合同

児童クラブの陳情を審査

文教厚生委員会

西田地区と鰐淵地区では、数年前から児童クラブ設置

要望があり、地区とも利用希望者が市の設置基準の五人を満たさず、現在まで設置されていません。



児童クラブ候補地「西田地区炭焼作業場」

直営による児童クラブが開設されましたが、

年々在籍児童が減少し、来年度からの存続が困難な状況となっており、

このような事情から、地元では、三地区合同の児童クラブの開設が検討されてきました。その結果、西田地区炭焼作業場を候補地として、平成十九年四月から開設すること、他地区から通所する児童の交通手段について配慮を求める陳情が提出さ

中ノ島ニューシティプラザの

増資に対する出資を可決

環境経済委員会

本委員会に審査の付託を受けた案件は、一般会計第四回補正予算をはじめ議案四件でした。

商工費では、「市街地活性化重点地区整備事業」として、「中心市街地活性化基本計画」（平田地域）にかかわる、まちづくり会社の「株中ノ島ニューシティプラザ」が行う、四千万円の増資に対する

条例案件では、「パルメイト出雲の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」について審査しました。事務室として使用していた部屋を貸し出し用の会議室とすること、また、各利用料金の時間区分を変更するため、条例改正を行うものであり、原案のとおり可決しました。



思い出横丁ぐらり

一中踏切の改良工事費などを可決

建設水道委員会

本委員会に付託を受けた案件は、一般会計第四回補正予算をはじめ、議案九件です。補正予算のうち、歳出については、土木費において国の予算内示に伴う街路事業費の追加一

億五千万円、出雲市駅前大津線関連の一中踏切改良工事における工事負担金五千八十万円が計上されました。歳入では、事業実施に伴う国庫補助金八千二百五十万円が計上さ

れ、審査の結果、原案どおり可決しました。

また、出雲市簡易水道事業、下水道事業、水道事業会計の補正予算についても、全会一致で可決しました。

下水道関係の条例改正三議案については、旧市町の区域ごとに異なる施設整備や費用負担が行われていたことから、新市の汚水処理整備計画に基づき、加入者負担金



改良が図られる一中踏切道

などを全市で統一するため、所要の条例改正をするものです。審査の結果、全会一致で可決しました。

取得しようとする土地は、県有地が大部分ですが、一部国有地と市の土地開発基金の所有地を含み、総面積は約二万四千平方メートルです。取得費の積算にあたっては、中央病院跡地に残置されている基礎杭の処理費は控除されました。また中央広場用地については県の減免措置が適用されました。

◆特別委員会報告◆

新庁舎建設用地取得へ

庁舎建設特別委員会

新庁舎建設用地および中央広場用地として、

県立中央病院跡地を取得するための予算十六

億八千五百万円が計上されました。財源は、市債（合併特例債）、まちづくり交付金などです。

は、すでにプロポーザル方式により基本設計・実施設計業者の選定が終わり、次の三月定例市議会には今回の予算議決を受け用地の取得議案が提案される予定です。

取得しようとする土地は、県有地が大部分ですが、一部国有地と市の土地開発基金の所有地を含み、総面積は約二万四千平方メートルです。取得費の積算にあたっては、中央病院跡地に残置されている基礎杭の処理費は控除されました。また中央広場用地については県の減免措置が適用されました。



新庁舎全体計画のイメージ

請願・陳情の審議結果

【請願】

請願番号	件名	提出者	審議結果
4	JR江南駅利用者対策についての請願	出雲市湖陵町二部1320 湖陵町区長会 会長 坂根 忠徳 他5名	採 択 (賛成全員)

【陳情】

陳情番号	件名	提出者	審議結果
25	子育てと仕事が楽しく両立できる保育制度の充実に対する陳情	出雲市外園町204-1 出雲市認可保育所(園)保護者会連合会 会長 中尾 誉(他賛同者数29名)	採 択 (賛成全員)
26	西田地区染焼作業場の一部借用による西田・北浜・鰐淵地区合同児童クラブ開設及び通所手段の配慮についての陳情	出雲市万田町19 3地区合同児童クラブ設立準備委員会 会長 小片 久夫 他3名	継続審査 (賛成全員)
27	平田幼稚園の適正規模化と速やかな改築を求める陳情	出雲市西平田町17 出雲市立平田幼稚園教育後援会 会長 仲田 和夫 他1名	採 択 (賛成全員)
28	出雲市立平田体育館の早期建設を求める陳情	出雲市平田町2280-1 平田商工会議所 会頭 大島 治 他2名	採 択 (賛成全員)

【継続審査中の陳情】

陳情番号	件名	提出者	審議結果
7	「21世紀出雲神話観光大国の創造＝大社門前町開発事業」出雲阿國座(仮称)の創設・泉源活用事業等の推進についての陳情	出雲市大社町杵築北2740 大社町町内会長連合会 会長 入江 紀久男 他26名	継続審査 (賛成全員)
11	国の療養病床の廃止・削減計画の中止等の意見書採択等を求める陳情	松江市嫁島町9番35号 島根県保険医協会 会長 古沢 正治	採 択 (賛成全員)
21	地域密着型サービスの改築等に関わる建設費の補助を求める陳情	出雲市塩冶有原町1-50 社会福祉法人ことぶき福祉会 理事長 槻谷 和夫 他1名	採 択 (賛成全員)

意見書の審議結果

【意見書】

意見書番号	件名	審議結果
7	道路整備の財源確保に関する意見書	原案可決 (賛成多数)
8	療養病床の廃止・削減計画の中止を求める意見書	原案可決 (賛成全員)

陳情の取り扱いを変更しました

○次の陳情は、本会議において審議を行わず、全議員に「写し」を配布する（周知を図る）にとどめますので、ご注意ください。

- ①郵送によるもの
- ②出雲市の行政および市民との利害関係（影響）が極めて薄い内容のもの
- ③意見書の提出を求める内容のもの

なお、本会議における審議を求める場合は、請願（出雲市議会議員の紹介が必要）として提出してください。

※詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。（電話21-6579）

交通対策特別委員長に聞く
地域の交通を守る

交通対策特別委員会 原 隆利委員長

(聞き手 広報委員 石川寿樹) とき 平成十八年十二月十一日 場所 出雲市役所



一畑電車「雲州平田駅」

石川 合併から二年がたちました。市の範囲が広くなり、交通体系にもいろいろな課題がありますが、特に重要な点をお話しください。

原 電車対策と公共交通不便地域の解消が大きな課題であると考えています。

電車の運行は、一畑電車(株)の事業ですが、

平成十七年度までは欠損補助という形で島根県および沿線自治体から多額の公費が支出されてきました。

市民への十分な説明責任を果たし、理解していただかないと、立ち行かなくなる事業です。その一方で、電車は交通弱者の大切な移動手段となっています。今後とも存続できる方

向で支援していかねければならぬと思います。一般財源を費やしていることから、利用者へのサービス向上が図られねばなりません。現行の一畑電車の体制

で良いのか、議会としても、注文をつけていかなければならぬと考えています。

石川 一畑電鉄(株)は鉄道事業を分社化し、経営努力がなされている一方で、行政としては、今年(平成十八年)の四月から、新しい支援方式が導入されました。これについて説明をお願いします。

原 今までは、電車運行から発生した欠損を、自治体で補助するという考え方でした。ところが、その方法では、事業者が経営改善すればするほど、欠損補助金が削減されることになり、経営努力が十分に評価されないなどの問題がありました。また、欠損は補助してもらえないのだという企業体質になるおそれもあります。そこで、

補助金の出し方を変え、一畑電鉄(株)から分社化した一畑電車(株)は電車の運行や利用促進(上)に対して負担し、基盤整備(下)は自治体が負担して鉄道施設の維持とその近代化を図っていくという上下分離方式になりました。

先進地視察した福井県のえちぜん鉄道は、社長自らの経営努力によって利用者が年々増加しており、職員の士気も高まっています。一畑電車(株)も、電車の利用促進や乗客へのサービス、PRなど、よりいっそうの企業努力を望みます。

石川 今年(平成十八年)三月には出雲市公共交通システム検討委員会の答申がありました。地域間の移動手段としての公共交通のあり方について、どうお考えですか。

原 一番の課題は、誰もが安心して移動できる手段をどのように確保していくかということです。そこで十月から試行的にデマンド

型乗合タクシーが運行されています。これは事前に登録しておき、病院やスーパーマーケットなどの目的地を定めて、利用申し込みにより送迎するサービスです。モデル運行として、稗原地区と上津地区の一部を、野尻線と西谷線の二路線でカバーしています。実施状況をみて利用が多ければ本格運行に切り替える計画です。

石川 検討委員会では、障害者や高齢者などの交通対策について福祉面からの議論もなされたと聞いていますか。

原 バスの乗り降りが不自由な方の負担を極力減らすため、低床式のバスや、車いすに乗ったまま乗り降りできるリフト付きのバスの導入など、誰もが安心してバスを利用できる設備整備の検討が必要ですよ。

石川 環境問題や経済性を考え、もう一度自動車依存型から公共交通への移行を政策と



原特別委員長

してめざす時期にきているのではないのでしょうか。

原 モーターションと道路網の整備が進んだ今、自動車利用を完全に否定することはできません。

過度の自動車利用がもたらす渋滞や事故、排気ガス問題など社会的費用の発生をできるだけ抑制し、公共交通を利用することが環境面や財政面などにも大変有益であると考えています。

石川 最後に、交通対策にとって大切なことは何だとお考えですか。

原 行政、事業者、市民が一体となって地域の交通を守っていくという心構えが必要であると思います。

市政のここが聞きたい

一般質問

12月定例会市議会では16人の議員がそれぞれ以下の項目について質問を行いました。1人1問ずつ選んで(◎印のもの)掲載しています。なお、原稿は質問した議員自身が要旨をまとめたものです。

米山 広志 議員 (8ページ)

- ◎三廻交流事業
- 踏切道の整備
- 神戸川上流部河川改修事業

原 隆利 議員 (8ページ)

- ◎出雲市のいじめ対策

川上 幸博 議員 (8ページ)

- ◎遊休農地の現状と減少への方策は
- 特産ぶどうの現状と今後の振興策について伺う

勝部 順子 議員 (9ページ)

- ◎安心して子育てができる出雲市に
- ドメスティックバイオレンス(配偶者などからの暴力)被害者への支援について

板倉 明弘 議員 (9ページ)

- ◎地方自治法の改正によって行うべき構造改革について
- 「いじめ」、「自殺」問題について
- いじめから子供を救う方策について
- 神在月出雲全国そばまつりについて

多久和 康司 議員 (10ページ)

- ◎出雲市立小中学校の二期制実施について
- 出雲科学館における理科学習の推進を
- 小中一貫教育について

坂根 守 議員 (10ページ)

- ◎市政フォーラムに一工夫を
- 小中学校でのいじめ対策は十分か

萬代 弘美 議員 (10ページ)

- ◎障害者自立支援法による負担増などに対し、重ねて市独自の支援策を求める
- 中電来島ダムの今後の安全管理と被災者の住宅被害に対する支援策について
- いじめ根絶への取り組みと対応について
- いじめ根絶への行政の果たすべき責務について

遠藤 力一 議員 (11ページ)

- ◎出雲市立総合医療センターの経営健全化は
- いじめ問題への取り組みは

大 国 陽 介 議員 (11ページ)

- ◎(株)イズミによる超大型店の出店について
- 市民本位の市営住宅を
- 7月豪雨災害の被災者支援について一層の努力を
- 本市の消防体制について

石川 寿樹 議員 (12ページ)

- ◎品目横断対策と農地・水・環境保全対策について
- 7月豪雨災害の復旧状況と今後の対策について

西尾 敬 議員 (12ページ)

- ◎出雲平田間の道路整備について
- 農地・水・環境保全対策について
- 緊急時の情報伝達システムについて

長 廻 利 行 議員 (13ページ)

- ◎災害時における水防資機材の整備について

山根 貞守 議員 (13ページ)

- ◎市税の収納状況について
- 自衛隊出雲駐屯地について

松村 豪人 議員 (14ページ)

- ◎児童の放課後対策について
- いじめ問題について

珍部 全吾 議員 (14ページ)

- ◎中心市街地の灯を守る市民協議会から中国四国農政局長に対する公開質問状について
- 西尾市長の知事選出馬問題

米山 広志

三廻交流の事業目的と

出雲市のかかわり

桜井市のそうめん、琴平町のうどん、出雲市のそばの三廻交流事業が、出雲市の補助金などで「大社まちづくり公社」が事業主体となり行われています。事業目的、内容と発足年度。

PRはどのようにされているか。

出雲市のかかわりは、

市長 友好交流都市である奈良県桜井市

香川県琴平町との地域

間交流と観光・文化・

産業の振興を図るため、

それぞれの特産品であ



にぎわう三廻交流イベント(大社町)

る三輪そうめん、讃岐

うどん、出雲そばをテ

ーマとして事業を実施

しています。旧大社町

と琴平町の友好都市の

締結を契機として平成

十六年度から始まった

事業です。

PRの方法としては、

三廻交流事業のポスタ

ーなどの作成、ホーム

ページへの掲載などを

行っています。

友好交流都市間の産

業・文化・観光など、

地域間交流を促進する

事業として、本年度は、

事業主体である大社ま

ちづくり振興公社に二

百万円の助成を行いま

した。

来年度以降について

は、若干新たな考え方

も入れていく予定です。

原 隆利

いじめ側の保護者対策

今、いじめは大きな社会問題となっている。当面の課題は、いじめの側にある子どもたちをどう指導し、矯正していくかにかかっている。

これは、もはや学校だけの対応で解決できる問題ではない。保護者も含めて、いじめが反社会的行為であり、他人の人格を傷つける



平成18年度出雲市人権ポスター入賞作品
荒木小学校4年 伊藤航輝さん

犯罪行為であることを知らしめる必要があると思う。

いじめ対策の指針は

教育長 昨今のい

じめは陰湿化、潜在化

さらに長期化する傾向

にあります。学校では

早期発見、早期対応を

心がけ、いじめ側が

悪いという立場に立つ

て、き然とした態度を

示すことが重要です。

保護者、特にいじめ

る側に回った保護者にも十分理解を求めていくことも大切なことです。

ほとんどの学校に、運営理事会を設置していただきました。今後はこの理事会の中で情報開示をしながら、P

TA、保護者、あるいは地域のさまざまな団体の方にもかわって

いただき、しっかりと

対応していきます。

川上 幸博

遊休農地の現状と

今後の方策について伺う

出雲市の農業では、生産者の多くが小規模経営者であり、高齢化や担い手不足にある中、耕作放棄地の拡大が心配される。耕作放棄地は平成七年には、二百四十七ヘクタールだったが、平成十七年は、五百九十一ヘクタールとなり、二倍以上に拡大している。農業支援センターでは、現在までに仲介あっせんがどのくらい行われたのか、

そして、今後の方策はどのようにするのか伺う。

市長 農業支援セン

ターでは、遊休農地に

限らず、農地全般にわ

たり農地の有効利用と

農業振興を図るため、

利用権設定促進事業に

取り組んでいます。ま

た、貸し出し希望農地

をJAいずもがいった

ん借り受け、規模拡大

をめざす農業者へ貸し

渡しを行う農地保有合

理化事業も統括して
います。両事業により有
効利用された面積は、
千六百一ヘクタールで
す。今後とも農地の仲
介あつせんに取り組み
ます。

また、集落営農組織
の支援や農業法人化に
向けた支援も積極的に
行うとともに、地域自
らが農地を守っていく
取り組みに対しても支
援を行います。



拡大が心配される耕作放棄地

勝部 順子

子育てするなら出雲市で

出生率の減少に歯止
めがかからない中で、
子どもを産み育てやす
い環境を整えることは
政治に課せられた大き
な責任だ。四点につい

て伺う。

十月から、出産育児
一時金が三十五万円に
引き上げられ喜ばれて
いる。支払方法も改善
され、保険者から直接

医療機関へ支払いがで
きる。ただし、市町村
の取り組みが必要だ。
早期に取り組んでいた
だきたい。
妊婦健診に対する公
的助成を、さらに充実
していただきたい。(現
行・二回助成)
小児救急電話相談事
業(#8000)の早
期実施に取り組んでい
ただきたい。
マタニティマーク
を活用して、妊産婦に
優しい環境をつくって
ほしい。



子どもを産み育てやすい環境を

市長 市では、出
産届の時点で現金支給
をしています。より一
層市民の便宜を図るた
め、新たに受取代理制
度の導入の準備を進め
ています。
妊婦健診の助成につ
いては、ニーズ、予算
の面、現状など十分に
勉強します。
小児救急電話相談は、
市内だけでも交代で何
とかできないか検討し
ます。県への働きかけ
をはじめとして、早急
に対処します。

マタニティマーク
のバッジを作ることは
そう難しくありません

ので、今後行動に移し
ます。

板倉 明弘

収入役制度の早期廃止と
監査委員機能の充実を

地方自治法の改正
(平成十八年六月七日
公布、平成十八年十一
月二十四日及び平成十
九年四月一日施行)が
行われ、地方公共団体
の組織および運営の合
理化が求められた。そ
の中には、収入役制度
を廃止し、その職務を
市の職員の中から任命
する会計管理者が行う
と規定されている。
また、市の監査委員
の定数について、識見
を有する者から選任す
る委員の数について、
条例で増加できる規定
が盛り込まれた。平成
十八年三月に策定され
た「出雲市行財政改革
実施計画」には、行政
自らが従来の行政シス
テムにとらわれず、新
しい視点に立って不断
に行財政改革に取り組

み、常にその体制の刷
新が必要と示されてい
る。
収入役制度の廃止と
監査機能の充実が早期
に解決すべき課題だと
考える。今年度内には
方針を明らかにしてい
ただきたい。
市長 収入役に係る
改正については、平成
十九年四月一日からど
うするか、現段階では
結論を得ていません。
今後、もう少し時間を
いただき検討していき
ます。
監査委員の増員につ
いては、現在、議会か
ら一人、学識経験者か
ら一人の計二人で適切
に行われていると考え
ています。さらに増員
が必要であるかどうか
は今後もう少し検討し
たいと考えています。

多久和 康司

出雲市立小中学校の二学期制実施を

学校週五日制の中でゆとりと豊かさが求められてきた。しかし、授業時間が縮減されるなか、学力向上のため学力テストの実施やいろいろな取り組みがされている。このことから児童生徒や先生にゆとりがなくなってきたと思うが現況を伺う。

会派の視察で二学期制について研修した。「二学期制を実施することで児童生徒が時間的・精神的なゆとりを持ち、じっくり取り組めた」「年間二十〜三十時間の余裕ができ、小中一貫教育の推進にもつながる」とのことだった。ゆとりがなくなりつつある今、二学



学校運営理事会

期制の実施を望み、考えを伺う。

教育長 現在子どもたちをめぐる教育環境は大きく変わり、学校全体からゆとりが失われつつあります。学校現場の課題は、学校だけでは解決できない問題がたくさんあり、学校運営理事会にも検討をしていただきたいと思っています。

坂根 守

市政フォーラムに工夫を

市政フォーラムは、執行部約三十名が参加し、市内三十八カ所ですべて開催されている。参加人数を見ると費用対効果にとぼしく、市長に直接お願いすることが物事を早く解決すると思い、陳情合戦の場になってい

ると思われ。市民代表の市会議員の声は、十分に執行部に届いていると思う。市長が直接市民と親しく意見交換を希望されるのなら、市長と語

二学期制については市町村の教育委員会の判断により定めることができませんが、実施にあたっては諸問題を解決していかなければなりません。しかし、授業時間を確保することは一番大事な問題です。今後の検討課題として受けとめたいと思います。



田儀地区での市政フォーラム

ついて回答を行いました。このパターンをずっと続けていく考えではありません。合併後二回行ってくださったの方々に喜んでいただいた実情がありますので、私だけが聞くのではな

く幹部の皆さん共通に情報を分かち合って、年一回くらい対話と交流を重ねていきます。なお、来年度以降のやり方については、工夫、改善を凝らしていきたいと思っています。

萬代 弘美

障害者自立支援法にふさわしい負担軽減・作業所運営費助成を

十月から自立支援法に移行した障害児施設では、利用料が二万円

もあがり、施設を退所する人が出るなど影響が出ています。また島根



障害者の自立を支える小規模作業所

県が行った一割負担導入に伴う支援費施設利用者の動向状況調査では、四月から八月の短期間に、負担増を理由に通所利用を四人が中止。その中には市内施設での事例も挙がっている。

利用者負担増による施設からの退所、利用抑制など深刻な問題に対し、月額上限額の引き下げなど、自立支援にふさわしい市独自支援の拡充を。

地域で障害者の暮らしと自立を支える小規

模作業所に対する国の一方的な運営費補助打ち切りに、市として緊急に助成を行うことを強く求める。

健康福祉部長

障害者自立支援法の施行により、市内利用者の負担金は、施設利用の方が月額平均約一万七千円、在宅の方が約六千円負担が増えています。現在のところ施設からの退所者はなく、利用控えの実態もないと判断しています。負担金により利用が困難な方は、個別に

相談し適切に対応します。

小規模作業所は、地域活動支援センターへの移行支援のなかで、

それぞれの施設の実態に応じ、運営基盤の強化充実を図っていきま

遠藤 力一

出雲市立総合医療センターの

経営健全化は

自治体病院は、地域にとって欠かせない重要な医療を提供している。しかし、その多くは慢性的な赤字状態になっている。総合医療センターは、再生プロジェクトを立ち上げ、平成二十一年までに収支均衡をさせる計画だが、以下の点について

総合医療センター事務局長

平成十八年度の収支見込みは、非常に厳しい状況で、約四億円の赤字が想定されます。医師退職に伴う利用者減が、非常に大きな原因です。

愛宕苑は、平成二十年の九月に廃止をする予定で進めています。

新棟の整備については、回復期医療を強化した改修事業となり、平成二十二年度には開院したいと考えています。

医療スタッフの確保の状況は、来年二月から常勤医師が十一名という、開院して以来、最も厳しい状況ですが、島根大学を中心とした

平成十八年度の収支決算見込みについて。愛宕苑に代わる新たな介護老人保健施設の整備は。

新病棟・機能訓練室などの整備計画の進捗状況は。

医療スタッフ確保の状況について、現状と今後の取り組みは。

平成十八年度の収支見込みは、非常に厳しい状況で、約四億円の赤字が想定されます。医師退職に伴う利用者減が、非常に大きな原因です。

愛宕苑は、平成二十年の九月に廃止をする予定で進めています。

新棟の整備については、回復期医療を強化した改修事業となり、平成二十二年度には開院したいと考えています。

医療スタッフの確保の状況は、来年二月から常勤医師が十一名という、開院して以来、最も厳しい状況ですが、島根大学を中心とした

働きかけにより、来年四月に向けて、医師確保のめどがつつつあります。看護師につい

ては、働きやすい職場環境を整備するなどして、確保に努めます。



意識改革が必要な出雲市立総合医療センター

大国 陽介

超大型店「ゆめタウン出雲」の出店に住民の理解は得られていない

市長は、イズミによる超大型店「ゆめタウン出雲」と市内小売店舗との共存・共栄が可能であるとされているが、根拠が示されたことは一度もない。

商店街や共同店舗の

皆さんは「商売が成り立つのか」「大きすぎて太刀打ちできない」など、将来に大きな不安を抱えている。また、予定地周辺にお住まいの方は、交通や騒音など、環境の悪化に不



超大型店「ゆめタウン出雲」出店予定地

安を募らせ、夜も眠れぬ日々が続いている。イズミと住民との間で、進入路や緑地などについて協議が行われているが、イズミはどのような解決策を示しているのか。住民の納得は得られているのか。

産業振興部長

住民の不安に対して、真摯（しんし）に対応するよう、イズミに強く要請しており、生

慮した計画変更が行われています。

十一月二十六日に行われた住民対策会でイズミから計画の説明が行われ、おおむねの理解が得られつつあると考えています。開店後も、住民、地権者、行政などとの協議を継続します。

「おおむねの理解が得られつつある」ということは完全には理解が得られていないということだと思いが。



北園地区では2つの組合が設立された

産業振興部長

確かに一〇〇%のすり合わせができていない

い部分もあり、解決を図るべく努力したいと考えています。

石川 寿樹

認定農業者と集落営農組織の話し合いはうまく行っているのか

来年度から導入される品目横断的経営安定化対策で支援が受けられる担い手、認定農業者と集落営農組織に、現時点でどれだけの農地が集積されているのか。

な方針・計画のもとに農地の集積をすすめていく考えか。

認定農業者から「集落営農組織にかたよった農地の集積がすすめられている。このままでは自分たちの経営が脅かされかねない。」

との不満の声があがっている。両者の話し合いはうまく行っているのか。

産業振興部長

本年十一月時点で、認定農業者などへの農地の集積は千四百二十

ヘクタール、集落営農組織に二千四百二十ヘクタール、全農地面積が五千九百四十ヘクタールであり、全体の四一%の実績です。今後は、平成二十一年度末に二千七百ヘクタール、五〇%の集積をめざす考えです。

認定農業者は、農業振興の重要な担い手であり、その育成確保には今後とも一層努力する考えです。

したがって、集落営農組織の立ち上げに際しては、認定農業者の意欲や利益を損なうことがないよう、十分な話し合いを行い、両者が共存できるような支援を行います。

西尾 敬

出雲平田間の道路整備は

市町村合併の最大のメリットである道路整備は、その計画さえ示されていない状況にある。

し、災害時に必要なう回路は市単独で整備できないか所見を伺う。また、美談（みだみ）地区では、土地改良事業が計画されているが、道路の整備計画とルートが未定のため、営農計画策定などに困惑されている。早急に県と協議し、対応すべきと思うが所見を伺う。

現在、出雲平田間で県へ要望している道路は、県道出雲平田線、国道431号、地域高規格道路の三路線であるが、県の財政状況から同時整備は無理と考える。そこで、県へは国道整備に絞って要望

市長 グランドデザインでの道路整備にお

本年七月の豪雨によ

り未曾有の災害となつ

長廻 利行
災害時における水防資機材の整備は



国道431号には歩道がなく危険な所がある

いて、出雲平田間については、国道431号を重要な路線として、基本計画にも掲げています。

しかし、現道は幅員が狭く、一部歩道もない危険な状態であり、国・県に一層働きかけていかねばならないと考えています。

県道出雲平田線（平田地域）の抜本的整備は困難とのことですが、

路（西代から美談まで整備済み）の延長についても市単独では難しい状況です。三本の路線を一本に絞ることも含めて検討すべき課題であると受けとめました。

道路整備計画についても、土地改良事業のためにも、ルートの設定だけでも急ぐように働きかけていきたいと思っています。

市長 今回の災害において、救命ボートが不足するようないふことがなかつたという事です。また、ライフジャケットは、消防署員、団員が全員着用し、救助された住

民の方もすべて着用していたのだという事です。

その後の消防団との意見交換において、今後、機動性の確保の観点からゴムボートの配備について検討中です。ライフジャケットについても、今後のより一層大きな災害の対策に向け、消防団を含め追加配備を検討する必要があります。

新出雲市が真に防災に強い安全なまちとして、日本一住み良いまちとして発展していくために、今回の災害を受け、現在、災害対策事業として、具体的に検討されている内容を伺う。



安全を守るための水防訓練

島根県においては、税の徴収率アップを図る上から、県と市町村の職員が互いに辞令を受けて共同徴収ができるように、職員相互併任制度を創設し努力がなされている。

県税および市町村税ともかなりの成果があったと伺っているが、出雲市はこの制度に対してどのような対応をされたのか伺う。

市税の収納については、昨年合併時の組織機構において収納管理課が新設され、収納対策に一層の努力がなされるものと大変に期待をしていたが、それがわずか一年で市民税課の内室として収納対策室となった。その理由を伺う。

山根 貞守
市税の収納状況は

があると考えています。災害の教訓を忘れないうちに、今後とも身を引き締めて、市民の

財政部長 収納管理課としてスタートしましたが、市民税部門において一定の期間に大量の賦課業務が集中し、市民税課職員のみで処理するには限界があり、また、逆に収納管理課にあつては、担当職員のみで滞納案件を処理することは実際には難しい状況でした。

賦課と徴収業務の連携強化により、柔軟な対応ができる体制が必要であると考え、わずか一年余りではありましたが、収納部門を市民税課の内室としました。

また、「島根県及び市町村徴収担当職務職員相互併任制度」につきましては、有効活用に向けて検討しています。

生命・財産を守ること、を政策の最大の課題として思いで頑張らせていただきます。

松村 豪人

児童の放課後対策の取り組みは

少子化が進展しているが、仕事を持つ保護者にとって安心して子どもたちを育てることができるよう、放課後対策についても一層充実していくべきである。国の新しい少子化対策の「放課後子どもプラン」を、市としてのどのように進めていくのか。また、現行の児童クラブについては、対象学年の拡大や預かり時間の延長などの要望がある。放課後対策事業をより充実させていくため、それぞれの地域に合った対策の早急な検討を求める。

地域振興部長

「放課後子どもプラン」は、原則小学校一

珍部 全吾

イズミ出店にかかわる公開質問状

出雲市中心市街地の灯を守る市民会議（会長・西田郁郎氏）から

中国四国農政局長に対し、イズミ出店にかかわる公開質問状が提出

年生から三年生を対象とする既存の放課後児童クラブと、学年を限定しない放課後子ども教室について、それぞれの小学校区に設置して放課後対策に取り組もうとするものです。

放課後児童クラブの対象学年の拡大要望などについては、「放課後子どもプラン」を活用して受け入れ可能なところから実施する考えです。いずれにせよ市全体の「放課後子どもプラン」を進めるうえで、放課後子どもプラン運営委員会を早期に立ち上げたいと考えています。

以上二点に集約されると思うが、この質問状に対する市長の見、今後のイズミ出店に対する影響などについて伺う。

市長

公開質問は、転用が必要かつ適当で、農用地区域外の土地をもつて代えることが困難であることなど、いわゆる農振除外四要件について、判断基準を問う

されている。

その骨子は、国が将来の農業を心配するなかで、あれだけの優良農地を除外する必要があったのかどうか。今ひとつは、「まちづくり三法」の改正により、国の都市計画に対する基本的な考え方が変わったなかで、なぜ郊外型の店舗を認めるのか。

内容です。これらの点については、再三にわたる農政局との協議のなかで、農用地区域からの除外はやむなしと判断されたものです。したがって、公開質問状に対しては農政局において適切に対応されると認識しています。

なお、公開質問状が提出されたことで、通常の許認可の手続きに支障が出ることはないかと確信しています。



ゆめタウン出雲予定地

講演会報告

市立総合医療センター経営の健全化に向けた講演会を開催

しながら、具体的かつ詳細に説明をされました。

十二月二十八日、ラピタウエディングパレスにおいて、市議会主催による、講演会を開催しました。

具体的には、総合医療センターの改善事項として、医師・看護師確保、経営形態変更、医療圏の役割分担による病院再編・ネットワーク化などについて提言されました。

講師は、公認会計士で、元総務省地方公営企業（病院）経営アドバイザーを務められた長隆（おさたかし）氏です。「出雲市民への助言」と題して、出雲市立総合医療センターの経営健全化に向けた議会の役割の重要性について講演いただきました。

今後、この講演の内容も参考にしながら、総合医療センターの経営の健全化・安定化に向けて、市議会として積極的に取り組んでいきます。

長講師は、「市立総合医療センター施設整備計画（増改築）《案》」の概要を基に、本計画案の検討および提案について、全国の他の病院の実例などを示



講師 長 隆氏

視察報告

環境経済委員会 新市の産業振興に向けて

10月25日～26日

出雲市においては、新しい水産物の流通体制の構築を行う必要があることから、産地市場の整備が検討されています。この参考とするため、JFしまね松江魚市場を視察しました。この市場は、鳥根県の沿岸漁業を中心とした漁獲物が多種にわたり集荷され、七～八割が地元消費されています。活魚施設も充実しています。今後、具体的な議論を深めるにあたり参考となる事例でした。

また、本市において新しい産業分野の開拓や集積を進めていく必要から、小境町の東部工業団地を視察しました。ライオン工業を事業主体とする出雲バイオマスエネルギープラントでは、建設廃材や間伐材、製材くずなど「木」に由来する資



JFしまね松江魚市場

源を活用し、将来、エネルギーとして水素が使われる社会に向け実証を重ねています。東部工業団地への誘致企業である株式会社プラテック出雲工場では、携帯電話部品などの製造用精密金型を製作しています。東部工業団地が地域産業の活性化と雇用促進にますます貢献することを期待しています。

(松村 豪人 記)

議会運営委員会 議会のさらなる活性化に向けて

10月30日～11月1日



特色ある掛川市議会議場

出雲市議会では、平成十七年三月議会から、一般質問で一問一答方式を導入し、市民の皆さんから分かりやすいと評価をいただいております。議会審議をさらに活性化させるため、視察を実施し、各議会の議長、事務局職員と意見交換をしました。

また、本市の新庁舎建設の参考とするため、各市の議場や委員会室などもくわしく視察しました。静岡県掛川市は、総務、経済建設、文教厚生の三常任委員会（任期一年）で構成され、一日に三委員会を同時開催しています。栃木県足利市は、平成十六年から対面による一問一答方式を導入しており、よりわかりやすく、

開かれた議会をめざしていました。

東京都東久留米市は、三月定例会で、全議員からなる予算特別委員会を設置して新年度予算を審議し、本会議最終日に、すべての会派が賛否討論（意見表明）を行っていました。

三市議会では、それぞれの地域の歴史、伝統に根ざした、地域性豊かな議会運営が行われていました。

(広戸 恭一 記)

交通対策特別委員会 実績あげる「えちぜん鉄道」

10月10日～12日

赤字衰退の著しい地方鉄道の中にあつて、目標を上回る勢いで乗客数を伸ばしている地方鉄道があると聞き、視察を実施しました。福井市内を走る「えちぜん鉄道」です。二〇〇〇年十二月と翌年六月に、相次いで死傷事故を起こした京福電鉄を記憶されている方もおいでだと思えます。この連続事故を起こしたことから、京福線は運休の処置が取られました。この突然の運休が鉄道の再評価につながり、沿線住民の強い再開の声もあり、二〇〇三年に、第三セクター「えちぜん鉄道株」として復活しました。

えちぜん鉄道の快走は見奈美社長の経営手



列車に配置されたアテンダント（客室乗務員）

腕に負うところが大です。「地方鉄道は単純な利便性よりも「ふれあい」に付加価値が見いだせる」「付加価値は現場が生む」との思いから、地域に密着した乗り物として、沿線を中心とした各種イベントの企画など積極的に住民の取りこみを図っています。一畑電鉄の今後、大きな参考となりました。

(原 隆利 記)

斐伊加・浦戸加治水対策特別委員会
大規模治水対策に学ぶ

10月16日～18日

埼玉県江戸川の堤台スパー堤防を視察しました。この堤防は、延長六百九十メートル、幅百三十メートルで、用地買収を行わず、土地区画整理事業と一体に実施され、住宅団地も整備されています。

続いて、首都圏外郭放水路を視察しました。この放水路は、中川・綾瀬川の浸水被害軽減対策として建設されたもので、地下五〇メートルにある直径一〇メートル、延長六・三キロメートルのトンネルを經由し、江戸川につながるものです。深さ六〇メートル、直径三〇メートルの立坑の一つに入って見学しましたが、あまりの規模の大きさと日本の技術の完成度の高さには、目を見張るものがありました。

続いて、首都圏外郭放水路を視察しました。この放水路は、中川・綾瀬川の浸水被害軽減対策として建設されたもので、地下五〇メートルにある直径一〇メートル、延長六・三キロメートルのトンネルを經由し、江戸川につながるものです。深さ六〇メートル、直径三〇メートルの立坑の一つに入って見学しましたが、あまりの規模の大きさと日本の技術の完成度の高さには、目を見張るものがありました。



「龍Q館」首都圏外郭放水路庄和排水機場

横浜市では、面積約八十四ヘクタールの大規模な鶴見川多目的遊水地を視察しました。この遊水地は、平常時には公園や緑地などに利用されており、横浜国際競技場などが建設されています。

今回は、都会地における治水対策を中心に視察しましたが、さまざまな治水方法を学ぶことができました。

(宮本 享記)

観光・産業振興特別委員会
九州各地のまちづくりを学ぶ

11月6日～8日

太宰府市は、太宰府天満宮の隣接地に九州国立博物館が開館し、連日、多くの人でにぎわっています。同じ門前町として、太宰府天満宮を中心とした観光振興策を視察しました。



八千代座(山鹿市)

山鹿市では、明治に建てられた「八千代座」を中心とした振興策を視察しました。山鹿市には市民会館のようなホールがないため、八千代座がその役割も果たしています。運営については、民間が主体的にかかわっており、今後、阿國座(仮称)の運営を考える上においても、市民のかかわ

山鹿市では、明治に建てられた「八千代座」を中心とした振興策を視察しました。山鹿市には市民会館のようなホールがないため、八千代座がその役割も果たしています。運営については、民間が主体的にかかわっており、今後、阿國座(仮称)の運営を考える上においても、市民のかかわ

編集後記

あけましておめでとうございます。

合併後二年間で調整するとありました合併協定項目も、ほぼ順調に整備されつつあります。今年度旧出雲市以外の地域に導入されましたコミュニティセンター方式に、まだまだ戸惑いの地区もあると聞きますが、無難な新市のスタートではないでしょうか。

十二月議会での一般質問で「いじめ問題」が多く取り上げられました。今年四月一日から市内全四十九の小中学校で地域学校運営理事会が設置され、学校・家庭・地域が一体となり子育てに取り組むことになりました。出雲市の教育がいじめのない、そして先進的な形になるよう、市民の皆さまとともに努力をしていきたいと思えます。

(坂根 守)

(長廻 利行 記)

議会に関する問い合わせは

〒693-8530 出雲市今市町109-1

出雲市議会事務局

電話(0853)21-6579 ファックス(0853)24-1720
ホームページ <http://www.city.izumo.shimane.jp/>
出雲市ホームページの中の市議会情報をクリック
メール gikai@city.izumo.shimane.jp

広報委員

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 福代 秀洋 |
| 副委員長 | 長岡 幸江 |
| 委員 | 遠藤 力一 |
| 委員 | 大國 陽介 |
| 委員 | 多々納 剛人 |
| 委員 | 石川 寿樹 |
| 委員 | 坂根 守 |
| 委員 | 米山 広志 |
| 委員 | 山代 裕始 |
| 委員 | 今岡 一朗 |
| 委員 | 多和田 康司 |
| 委員 | 長廻 利行 |
| 委員 | 荒木 孝 |
| 委員 | 寺田 昌弘 |